

## 大学教育再生加速プログラム（AP） 中間評価結果の総括

平成 30 年 3 月 16 日

大学教育再生加速プログラム委員会

### 1. 中間評価とその結果について

大学教育再生加速プログラム（AP）（以下「AP」という。）は、大学に対する社会の期待に応えるため、これまで以上に教育内容を充実させ、学生が徹底して学ぶことのできる環境を整備することが必要であるという認識のもと、大学教育の質的転換の加速を促し、大学の人材養成機能の抜本的強化を推進することを目的に、平成 26 年度に開始された文部科学省の事業である。AP については 3 年度にわたって新規取組の選定が行われ、平成 28 年度までに 78 の大学、短期大学、高等専門学校（以下「大学等」という。）による 77 件の多様で先駆的な取組が選定されている。

このたび、各取組の進捗状況等や各種指標の達成状況等について評価を行い、その結果を各大学等に示し適切な助言を行うとともに、社会に公表し国の補助事業としての説明責任を果たすことを目的として、中間評価を実施した。

中間評価の評価結果は、「S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。」が 14 件、「A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。」が 55 件、「B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。」が 8 件である。

中間評価を通じて、各大学等において選定時に付された留意事項に対応した改善が図られるとともに、平成 28 年度に実施したフォローアップで示された指導・助言を参考とし、個別のテーマのみならず、総合的な大学教育改革に取り組まれていることが確認できた。なお、これまでの具体的な成果と今後の課題について、以下のとおり各テーマ別に総括する。

### 2. テーマ別の成果と課題

テーマ I 「アクティブ・ラーニング」は、学生の能動的な活動を取り入れた教授・学習法の実施により、認知的能力や教養等を含めた汎用的能力の育成を図る取組を推進するテーマである。これまで、課題解決型授業（PBL）やフィールドワーク等を取り入れた教育プログラムが構築され、各選定校において実践されてきていること、学生の学修行動や学修成果を分析することにより、各プログラムが効果的・効率的に実践されるなど、PDCA サイクルも回り始めていることが確認できた。また、本テーマに選定された全ての大学等が参画する

ウェブサイト「アクティブ・ラーニング・オンライン（ALO）」が立ち上げられ、優良授業の実践事例を動画で共有し、全国の高等教育機関に活用を呼び掛けている点も注目できる。一方、こうした個々の授業改善やプログラム構築が、大学教育そのものの課題、とりわけ質保証の観点から適切に学士課程教育全体の中に位置付けられ、本事業が目指す大学教育の姿を描き出すところに繋がられていくかという点については、まだ課題が残っている。

テーマⅡ「学修成果の可視化」は、各種指標を用いて学修成果の可視化を行い、その結果を基に教育内容・方法等の改善を行う取組を推進するテーマである。これまで、学修行動調査や汎用的能力測定テスト、ルーブリック等を複合的に活用することにより、学生の学修成果を可視化し、教育改善に取り組まれていること、各種データが全学的な教学マネジメントを展開する際に活用され、学内の教職員の意識改革にも資するものとなりつつあることが確認できた。また、本テーマの全ての選定校が参画する「『学修成果の可視化』あり方検討会議」が立ち上げられ、各大学等の取組の底上げを図りつつ、全国の大学等と成果を共有する試みが行われている点も注目できる。一方、学修成果の測定を外部のテストに依存する割合が大きいこと、学生の授業外学修時間の伸長に苦慮している点が課題として指摘される。

APには、テーマⅠ「アクティブ・ラーニング」とテーマⅡ「学修成果の可視化」の複合型も設定されている。ここでは、APにおける「アクティブ・ラーニング」の目的と、今日的な「学修成果の可視化」のターゲットが学生の汎用的能力も対象とするという点で一致していることを踏まえ、教育活動の改革を行いつつ、学修成果に基づく内部質保証の実質化に向けて、まさに複合的な取組が展開されている。具体的な成果と課題は、前述した両テーマと共通するものである。

テーマⅢとしては、入学志願者の意欲・能力・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法を開発・実施する取組を推進する「入試改革」と、高等学校関係者と大学関係者との間で互いの教育目標や教育内容、方法について相互理解を図ることなどにより、高等学校教育と大学教育の連携を強力に進める取組を推進する「高大接続」の、2つの類型が設定されている。「入試改革」においては、お茶の水女子大学の「新フンボルト入試」、岡山大学の「IB（国際バカロレア）入試」、追手門学院大学の「アサーティブ入試」といった先駆的な入学者選抜方法が開発・実施されており、早くも各種媒体において高く注目されているところであるが、これらの取組は、その選抜を経て入学した学生の学修と卒業後を追跡し、効果を測定していくことが望まれること、そして、実施されているこれら手法については、持続可能性を高めることが今後の課題である。「高大接続」においては、アメリカに見られる「アドバンスト・プレイスメント」を我が国の状況に合わせて導入していく取組等が、地域の高等学校関係者をアクターとして巻き込みながら展開されており、注目されている。「入試改革」同様、それらの取組に参加した高校生が大学生となり、社会人となっていく過

程における効果の測定が今後の課題である。

テーマⅣ「長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）」は、入学直後等に1か月以上の長期の「学外学修プログラム」を開発・実施する取組を推進するテーマである。これまで、多くの選定校で4学期制に移行し、学生が他授業科目等への影響を回避して学外学修に集中して取り組むことができる体制整備が行われてきた。「学外学修プログラム」としては、地元のみならず国内各地域における企業でのインターンシップや海外研修プログラムが、APの目的に即した形で開発・実施されるとともに、参加した学生の主体性が引き出され、経験後の大学における学びが変容しつつあることが確認できた。一方、こうした新たな学外プログラムが学士課程教育全体の中にどのように位置付けていくのか、現代的な大学教育の質保証の文脈の中でどのような役割を担っていくのか、という点では課題も少なくない。また、学事暦の変更に伴う社会制度との様々なギャップを、社会の理解を得ながら埋めていくことも今後検討していく必要がある。

テーマⅤ「卒業時における質保証の取組の強化」は、学生が卒業段階でどれだけの力を身に付けたのかを客観的に評価する仕組みや、その成果をより目に見える形で社会に提示するための効果的な手法等を開発する取組を推進するテーマである。これまで、学生の就職先等の企業と連携し、卒業後の社会で求められる資質・能力の明確化を図るための調査を行い、卒業時に可視化する学修成果の各種指標が検討されていることが確認できた。また、社会との接続を見据えた学修成果の可視化に向けては、学内に留まることなく社会全体を巻き込んだ議論と検討が必要であるという課題が見えてきており、選定校間の連携を密にしつつ、そうした難題に対峙していく取組も注目できる。一方、質保証としてのシステム構築的アプローチのみならず、大学の人材養成機能の抜本的強化というAPの目的に向けて、各選定校の教育改革と両立して取組が進められるかについては、今後注視すべき課題である。また、本テーマの目指すべき方向性として、選定校間の連携を超えて、他大学への展開を見据えた汎用的な成果を創出していくことが今後求められる。

### 3. 全テーマに共通の成果と課題

全テーマに共通して、各テーマが求める個別の取組に限定されることなく、大学独自の教育改革とうまく接続させ、入口から出口まで通貫した総合的な大学教育改革が志向されている点を確認できた。ただし、そのことにより各選定校は新たな様々な課題に直面しており、学長等を中心とした教職員の奮闘ぶりが見て取れる。今後、補助期間終了に向けて課題をどのように解決していくのか、本委員会としてもフォローアップ活動等を通じて適切に支援していきたい。また、精力的に取り組まれている教育改革が、学生の視点からどのように評価されているのか、学生の学びをどのように変容させているのか、補助期間後半では各選定校において特に意識して取り組まれることを期待したい。それらを踏まえ、各大学において

は補助期間終了後も取組が継続され、大学の活動の中に不断の教育改善サイクルを定着させていくことを見据えた準備にぜひとも着手していただきたい。

注目すべきは、各テーマの幹事校を中心とした選定校の努力により、選定校間のみならず、全国の大学等を巻き込んだ成果の発信と課題の共有など、自律的な情報共有のネットワークが広がりつつある点である。大学教育改革と質保証は、各大学等における課題であると同時に、我が国の高等教育に共通の課題でもある。このように醸成されつつある選定校を中心とした大学間のネットワークにより、自律的な大学による教育改革がより一層進展していくことが期待される。

#### 4. 最後に

本事業は、大学教育改革と同時に質保証を通じて国民社会への説明責任を果たしていく取組を推進する目的も同時に有している。このことは、教育の面のみならず補助金という国費の使途についても同様である。国費の使途に関する説明責任は、本事業特有の問題ではないが、質保証を標榜する本 AP の選定校においては、率先して説明責任を果たしていく存在となることを期待したい。

事業を実施する大学等においては、今回の中間評価で示された好事例を自大学等における取組に生かすとともに、今回明らかとなった課題の解決に向けて対応し、事業の成果を全国の大学等へ波及させていくことを期待したい。

なお、本事業においては、申請時において達成しているか、中間評価実施年度までに達成することが求められる「申請要件」が課せられており、中間評価時にその達成状況を確認することとなっていた。その結果、杏林大学において「申請要件」の達成にやや遅れがあることが判明したが、現時点では「申請要件」を達成できていることが確認できた。このことを踏まえ、当該大学に対しては厳重に注意するとともに、補助金配分額の減額等の必要な措置を行うよう、文部科学省に申し入れたことを付記しておく。

以上

## 大学教育再生加速プログラム（AP）中間評価結果一覧

区分	テーマ														合計	
	テーマⅠ アクティブ・ラーニング		テーマⅡ 学修成果の可視化		テーマⅠ・Ⅱ 複合型		テーマⅢ (入試改革)		テーマⅢ (高大接続)		テーマⅣ 長期学外学修プログラム (ギャップイヤー)		テーマⅤ 卒業時における質保証の取組の強化			
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
S	0	0.0%	0	0.0%	4	19.0%	1	33.3%	2	40.0%	1	8.3%	6	31.6%	14	18.2%
A	5	55.6%	8	100%	16	76.2%	1	33.3%	3	60.0%	9	75.0%	13	68.4%	55	71.4%
B	4	44.4%	0	0.0%	1	4.8%	1	33.3%	0	0.0%	2	16.7%	0	0.0%	8	10.4%
C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
D	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	9	100%	8	100%	21	100%	3	100%	5	100%	12	100%	19	100%	77	100%

小数点第2位を四捨五入

S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。：14件

テーマ	整理番号	設置形態	大学等名
テーマⅠ・Ⅱ複合型	20	国立	山口大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	24	私立	芝浦工業大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	29	私立	産業能率大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	36	私立	京都光華女子大学短期大学部
テーマⅢ（入試改革）	41	私立	追手門学院大学
テーマⅢ（高大接続）	42	国立	千葉大学
テーマⅢ（高大接続）	44	国立	愛媛大学
テーマⅣ	48	国立	新潟大学
テーマⅤ	60	国立	茨城大学
テーマⅤ	61	国立	東京外国語大学
テーマⅤ	62	国立	高知大学
テーマⅤ	70	私立	東京都市大学
テーマⅤ	72	私立	大阪工業大学
テーマⅤ	73	私立	日本赤十字九州国際看護大学

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。：55件

テーマ	整理番号	設置形態	大学等名
テーマⅠ	1	国立	徳島大学
テーマⅠ	2	公立	県立広島大学
テーマⅠ	5	私立	徳山大学
テーマⅠ	8	国立	仙台高等専門学校
テーマⅠ	9	国立	明石工業高等専門学校
テーマⅡ	10	国立	横浜国立大学
テーマⅡ	11	公立	北九州市立大学
テーマⅡ	12	私立	八戸工業大学
テーマⅡ	13	私立	東京女子大学
テーマⅡ	14	私立	新潟工科大学
テーマⅡ	15	私立	福岡歯科大学
テーマⅡ	16	私立	富山短期大学
テーマⅡ	17	国立	阿南工業高等専門学校

テーマⅠ・Ⅱ複合型	18	国立	宇都宮大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	19	国立	金沢大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	21	国立	長崎大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	22	公立	大阪府立大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	23	私立	共愛学園前橋国際大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	25	私立	玉川大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	26	私立	東京電機大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	27	私立	東京理科大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	28	私立	創価大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	30	私立	金沢工業大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	31	私立	京都外国語大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	33	私立	関西国際大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	34	私立	比治山大学、比治山大学短期大学部
テーマⅠ・Ⅱ複合型	35	私立	宮崎国際大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	37	私立	福岡医療短期大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	38	国立	岐阜工業高等専門学校
テーマⅢ（入試改革）	39	国立	お茶の水女子大学
テーマⅢ（高大接続）	43	国立	東京農工大学
テーマⅢ（高大接続）	45	公立	三重県立看護大学
テーマⅢ（高大接続）	46	私立	杏林大学
テーマⅣ	47	国立	小樽商科大学
テーマⅣ	49	国立	神戸大学
テーマⅣ	51	私立	工学院大学
テーマⅣ	52	私立	津田塾大学
テーマⅣ	53	私立	文化学園大学
テーマⅣ	54	私立	武蔵野大学
テーマⅣ	55	私立	東京工科大学
テーマⅣ	56	私立	浜松学院大学
テーマⅣ	57	私立	長崎短期大学
テーマⅤ	59	国立	山形大学
テーマⅤ	63	国立	鹿屋体育大学
テーマⅤ	64	公立	大阪市立大学

テーマⅤ	65	公立	兵庫県立大学
テーマⅤ	66	私立	千歳科学技術大学
テーマⅤ	67	私立	東北公益文科大学
テーマⅤ	68	私立	東日本国際大学
テーマⅤ	69	私立	東京薬科大学
テーマⅤ	71	私立	日本福祉大学
テーマⅤ	74	私立	東海大学短期大学部
テーマⅤ	75	私立	山梨学院短期大学
テーマⅤ	76	私立	松本大学松商短期大学部
テーマⅤ	77	国立	徳山工業高等専門学校

B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。：8件

テーマ	整理番号	設置形態	大学等名
テーマⅠ	3	私立	立正大学
テーマⅠ	4	私立	京都光華女子大学
テーマⅠ	6	私立	福岡工業大学
テーマⅠ	7	私立	崇城大学
テーマⅠ・Ⅱ複合型	32	私立	関西大学
テーマⅢ（入試改革）	40	国立	岡山大学
テーマⅣ	50	公立	福岡女子大学
テーマⅣ	58	国立	宇部工業高等専門学校